

第5回 2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議  
(議事概要)

1 開催日時

令和5年11月22日(水曜日)14時00分から15時00分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎42階北塔 特別会議室B

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	生活文化スポーツ局次長
スポーツ庁	柿澤 雄二	参事官(国際担当)
公益財団法人日本オリンピック委員会	星 香里	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事
弁護士	三好 豊	
公認会計士	中村友理香	

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟  
東京都

4 要旨

【挨拶】

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、お忙しいところ、第5回2025年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・8月の第4回会議では、大会概要、デフリンピック運営委員会からの報告等について皆様にご確認を頂いた。
- ・本日は、開催基本計画案、デフリンピック運営委員会からの報告のほか、気運醸成に関する大会2年前の取組等について、順次ご報告をさせて頂く。
- ・なお、スポーツ庁の八木参事官のご異動に伴い、本会議の委員もご退任されることとなった。後任として、柿澤雄二参事官が新たに委員にご就任いただく運びとなったので、ご報告させて頂く。

柿澤委員、ご挨拶をよろしく願います。

○スポーツ庁 柿澤参事官

- ・10月にスポーツ庁の国際担当の参事官に着任しました柿澤です。素敵なエンブレムやアンバサダーも決まったところで、デフリンピックの気運醸成に向けた取組というものも進んでいるところと思う。国としても大会の成功に向けて必要な支援、協力をしていきたいと思っているので、よろしく願います。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・今回の会議も忌憚のない意見を皆様から頂戴したいと思う。

【資料説明】

○開催基本計画の策定について（東京都）

- ・事務局から開催基本計画の策定についてご説明する。  
8章構成になっており、1章から4章までは、8月に公表した大会ビジョン、実施競技、競技会場等を記載した大会概要と同様の内容。
- ・これに加え、5章及び6章は、本大会を通じて実現する東京の姿について記載。続いて7章及び8章は、競技・会場運営など大会に必要な業務について、サービスレベルの考え方を記載。
- ・1章から4章までは大会概要のとおり。
- ・5章 デフリンピックを通じてめざすもの  
大会を通じて都がめざす姿をまとめた「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」を踏まえ、全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京の実現に貢献していく。
- ・みんながつながる  
手話言語に対する理解促進とともに様々なデジタル技術も活用し、誰もが円滑につながる大会を実現しユニバーサルコミュニケーションを社会に浸透させていくとし、情報保障やコミュニケーションの充実、新しい技術の開発、大会における技術活用状況などの発信について記載。
- ・世界の人々が出会う  
選手や関係者などをおもてなしの心でお迎えするとともに、東京の持つ魅力を感じてもらい、世界と絆を深めていくとし、様々なおもてなしや大会を彩る取組について記載。
- ・子どもたちが夢をみる  
子供たちがデフスポーツの特徴や魅力を感じてもらう取組実施やデフアスリートとの交流機会の提供など、すべての子供たちの学びや成長をサポートしていくとし、競技観戦やエスコートキッズなどの取組について記載。
- ・未来へつなぐ  
デフスポーツやろう者の文化への理解促進、環境への配慮に取り組むことで「未来につながる大会」を実現するとし、共生社会の大切さを学ぶ機会や環境への配慮について記載。
- ・みんなで創る  
当事者の目線を踏まえて大会計画を策定し、多くの都民の理解と参画のもと、みんなで

大会を創るとし、競技団体と関係自治体との連携やボランティアなど様々な人々の参画について記載。

・ 6章 みんなで大会を盛り上げる

デフスポーツへの理解促進や共生社会づくりに貢献していくこと、それを都民・国民に発信するとともに大会の機運を盛り上げていくことについて記載。

・ 大会の意義や魅力を伝える

多くの都民・国民に大会に参画してもらえるよう、東京 2025 デフリンピック応援アンバサダーやイラストを活用した特設ホームページなどを活用し、大会の意義や魅力を伝え、多くの都民・国民の参画につなげていくことについて記載。

・ 共生社会について考える

大会を通じたデフスポーツやろう者の文化への理解促進のため、デフアスリートの活躍の紹介や、手話言語などをテーマにしたハンドブックを活用するなど、ろう者の文化を身近に感じてもらい、共生社会について考えを深めるきっかけとすることや芸術文化を通じた発信について記載。

・ サポートの輪を広げる

関係団体や区市町村などと連携し、みんなで力を合わせて大会を創っていくための様々な取組を展開していくとともに、寄附やクラウドファンディングなど、多くの方々が参画しやすい仕組みづくりを進めていくことを記載。

・ 7章 大会運営体制

・ ガバナンスの確保では、大会が都民・国民に心から歓迎されるものとするため、「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」などを踏まえ、適切なガバナンス体制を確保し、スポーツのフェアネスを体現した組織を構築することを記載。

・ 運営要員ではボランティアの活用等について記載。

・ 8章 大会運営

・ 競技ではあらゆる人が協働した大会運営をめざすため、国内デフ競技団体や国内競技連盟などから協力を得ながら連携体制を構築していくこととし、競技運営体制や競技種目や競技エントリー等について記載。

・ デフリンピックスクエアは、大会期間中、選手が各種サービスの提供を受けられるとともに、選手同士の交流ができる拠点として設置する。

・ 医療サービスや会場警備など選手や観客の安全確保等にも努めていく。

○大会エンブレムの決定について（デフリンピック運営委員会）

・ 9月3日（日）午後には東京都パラスポーツトレーニングセンターで行われたグループワーク・発表イベントにて、候補案3案から都内中高生の投票により、エンブレムが決定した。

・ エンブレムのコンセプトは、人々の繋がりを意味する「輪」がテーマとなっている。

・ デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先

には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁をモチーフとした。

- ・大会エンブレムは、今後、大会の気運醸成やPRに活用し、大会の知名度向上にもつなげていく。
- ・また、自治体等が気運醸成やPRのためにエンブレムを掲載するにあたり、正しく使用されることを目的に『東京 2025 デフリンピック大会エンブレム使用ガイドライン』を策定した。

#### ○デフリンピック・フェスティバルの進捗状況（デフリンピック運営委員会）

- ・全国8ブロックで開催されるデフリンピック・フェスティバルの助成にあたり、内規を定めた。
- ・実施主体が、地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政が後援であることが条件。
- ・助成対象とする経費は、諸謝金、旅費、借損料、印刷製本費、消耗品費、通信運搬費、雑役務費、保険料、委託料である。
- ・助成金額は上限10万円とし、本助成金に加え、他の補助金や参加費等の収入がある場合で、収入額が支出額を超過した場合は、超過した金額を差し引いて助成するものとしている。
- ・各ブロックから開催申請を受け、当運営委員会事務局で開催要項、予算案を審査する。開催終了後、報告書、決算書、領収書等の提出を受け、審査の上、助成金額を決定する。
- ・現在、承認済は北海道ブロック（札幌）、東北ブロック（福島）、東海ブロック（静岡）、九州ブロック（福岡）。
- ・開催済の状況について、説明する。
- ・静岡は10/22に開催。参加者は静岡協会からの手話言語ボランティアを含めて約70名。手話言語体験コーナーを設け、特に多数の子どもたちが楽しそうに学んでいた。
- ・北海道は11/3に開催。参加者101名。北海道（スポーツ振興課）、北海道教育委員会、北海道障がい者スポーツ協会、道議会議員、聾学校校長会などからも参加あり。北海道新聞とテレビ北海道の取材あり。
- ・福岡は11/5に開催。約200名参加。バドミントン日本代表候補選手の講演等が行われ、選手の在住所の大宰府市長からのお祝いメッセージを頂いた。選手との交流も設けられ、デフリンピック認知度向上に繋がる機会となった。
- ・申請準備中は、関東ブロック（神奈川県）、北信越ブロック（石川県）、近畿ブロック（大阪府）、中国・四国ブロック（鳥取県）である。
- ・申請準備中の4ブロックには、上記の開催状況や開催形態等を共有し、助言を行っている。
- ・また、デフリンピック・フェスティバルの報告をもとに分析を行い、来年度の気運醸成

## 事業の検討および策定に活かしていく

### ○社会的・文化的プログラムの検討（デフリンピック運営委員会）

- ・社会的・文化的プログラムの検討チームの委員を、きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者等から運営委員会事務局にて選任した。
- ・第2回運営委員会で承認された、全日本ろう者演劇協会 事務局長の植野氏がチームリーダーとなっている。
- ・きこえない芸術文化当事者団体からは、NPO 法人シアター・アクセシビリティネットワーク監事の椎名氏、手話読み聞かせグループ たま手ばこ代表の那須氏を委員に選出した。
- ・外部委員として、日本財団公益事業部審査チーム リーダーの齊藤氏、東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部事業調整担当課長の中山氏を委員に選出した。
- ・本年度は、過去デフリンピック大会における社会的・文化的プログラムの調査および国内の手話言語やろう者の文化、きこえないことの体験等の体験プログラムの調査を行い、東京 2025 デフリンピックにおける社会的・文化的プログラム案の策定に取り組む。

### ○都の気運醸成に関する2年前の取組（東京都）

- ・都は、東京 2025 デフリンピックの開催2年前に合わせ、原宿において、デジタル技術を活用した聴覚障がい者との交流の場となる「みるカフェ」を期間限定でオープンした。
- ・「みるカフェ」では、音声や手話を文字に変えて“見える”化するユニバーサルコミュニケーション技術を通じて、障がいのあるなしに関わらず、誰もが円滑にコミュニケーションできる環境を提供することで、共生社会の実現に寄与していきたい。
- ・期間は、デフリンピックの開催期間に合わせて、11月15日（水曜日）から26日（日曜日）までとし、店内にはデジタル技術を活用した聴覚障がいのあるスタッフとのコミュニケーションを体験できるほか、手話をモチーフとしたアート展示や、大会エンブレムのモニュメント展示、デフリンピックの過去大会の映像放映などを行う。
- ・ぜひカフェにお越しいただき、デジタル技術を用いた新たなコミュニケーションを体験していただきたい。

## 【意見交換】

### ○東京都 渡邊次長

- ・9月にエンブレムも決定し、先週11月15日に大会2年前の節目を迎えた。先ほど都からの報告にもあった通り、「みるカフェ」という、新しい取組にもチャレンジしている。また「広報東京都」という都の月刊広報誌でデフリンピックと世界陸上の特集が今月掲載されている。「学ぼうデフリンピック」という冊子を作り、インターネットでも公開しており、デフリンピックとは何かとか、手話言語を紹介している。今後、子どもたちへの配布や大会本番では会場でみなさんにも手に取って頂くなど、今後も様々な機会を捉えてデフリンピックの気運醸成に努めていきたい。

- ・また、関係者のご協力のもと、本日、開催基本計画を公表する運びとなった。
- ・今後、本計画をベースに、スポーツ文化事業団が中心となって関係者と連携しながら具体的な各業務の運営準備を加速させていく。
- ・大会準備とともに大会後、都民・国民にレガシーを残していくことも重要である。都は本年2月に大会を通じて目指すべき姿をまとめたビジョン2025を策定しているが、本計画では、ビジョン2025を具体化する取組も盛り込ませていただいた。
- ・スポーツには社会を変える力があるという言葉が昔から言われているが、その力を使って、デフリンピックを通じてみなさんが手話言語を理解し、さらにはみんなの共生社会に対する理解が深まることを目指していきたい。
- ・今後、開催基本計画を踏まえて、大会の全体予算や収入の確保策についても取りまとめていくこととしている。財源の確保にあたっては、都も知恵を絞るが、政府のお力添えも必要となる。そのため、連盟や事業団では都が定めたガイドラインや国で定める指針等の遵守が求められることから、しっかりと取り組んでいただきたい。
- ・引き続き、皆様のご助言、ご支援を頂きながら、円滑に準備運営を進めていきたい。ご協力をお願いします。

#### ○スポーツ庁 柿澤参事官

- ・今回このような形で大会開催基本計画を取り纏められたということ。大会の意義やどのような形で円滑に大会を開催していくのか、大会運営の方針を取り纏めたということで、まずもってこれまでの取組に改めて敬意を表したい。
- ・この大規模な競技大会の組織委員会のガバナンス体制の在り方については、今年の3月にスポーツ庁に設置したプロジェクトチームにおいて、指針を策定しているところ。大会運営にあたっては、この指針に基づく事後説明、公表が必要になる。新しい取組なので、こういった形で指針に基づいた取組を説明していくのかスポーツ庁も丁寧にご相談に対応したい。
- ・また大会の開催に向けては、スポーツ庁はもとより様々な関係省庁に対する協力あるいは要請があるかと思う。それらについてもスポーツ庁に幅広にご相談していただければ、政府全体としてこういった対応ができるのかしっかり考えていきたい。

#### ○JOC 星常務理事

- ・本日、開催計画が公表ということで大会が具体性を帯びイメージができるようになり、招致のころから関わっていた立場としては嬉しく思うと同時に、ここまでこぎ着けたみなさまに敬意を表したいと思う。
- ・今後2年、準備に向けてJOCもしっかり協力していきたい。特に大会の各競技の運営にあたってはJOCに加盟しているNFとの連携が必要になってくると思うのでJOCとしてご協力できればと思う。
- ・「みるカフェ」がNHKで非常にいい形で紹介されており、ますます気運が盛り上がっていると思う。

#### ○JPSA 藤原常務理事

- ・開催基本計画及び最新の気運醸成の活動のご説明を伺い、非常に素晴らしい内容として進んでいると改めて感じた。
- ・デフリンピックスクエアについて、非常に素晴らしいことだと考える。デフリンピックは、オリンピック・パラリンピックと違って選手村等がない。毎日、選手団団長会議が開催されるだろうし、各選手団と日本の関係者及び各国選手団の交流等を考えたら中心となるサービスステーションがあるというのは非常に重要。こちらを整備して頂けると非常に素晴らしいことだと感じた。
- ・一点質問になるが、各選手団が来たとき、どのようにコミュニケーションを取るのか、各選手は国際手話ができるのか、あるいはそれぞれの国の手話言語が中心なのか、デフリンピックスクエアで日本側はどのようにサポートをするのか。日本は国際手話ができる人が少なく、これから養成していかないといけないと聞いている。
- ・気運醸成活動「みるカフェ」も含めて非常に素晴らしい取組がなされていると思うが、最近記者の方々と話したときに、まだまだデフリンピックの認知度は低いと聞いた。啓蒙活動をしていかなければいけないと思うが、一方通行ではなく都民、国民にも参画いただいて、一緒に盛り上げることができたらと思う。例えば「こんにちは」「ありがとう」「がんばって」などの国際手話ができるようにメディアを通じた啓発活動など、映像を通じて行ってもよいのではないかと思います。私自身もぜひ勉強していきたい。

#### ○デフリンピック運営委員会

- ・今までのデフリンピック大会では各国の方が来た時には、国際手話あるいは英語対応が主となっている。2025 デフリンピックにおいても国際手話での対応を行う予定。ろうあ連盟では国際手話を習得する人を増やしていく人材育成を考えている。ろうあ連盟に設置の国際委員会にその協力を得ながら3年ほど前からオンラインで国際手話の学習会を開いており、毎回100人を超える受講生がいる。

#### ○事務局（東京都）

- ・東京都の取組としても、国際手話人材の育成を今年度から始めている。民間の国際手話の講座をやっている団体を通して受講生の受講費負担軽減を図る取組。今年度から始めたのでまだ実績はでていないが、大会に向けてしっかり取り組んでいきたい。なかなか国際手話人材も一朝一夕に育つものではないと考えるので、大会時には国際手話人材の育成活用と併せていろいろな技術の活用も併せてコミュニケーションしっかりやっていたらいいと考える。

#### ○東京都スポーツ文化事業団

- ・デジタルツールを使ってコミュニケーションをするというのを今回の大会の特徴としていきたい。デジタルツールでも実務として使えるレベルではないものも含め様々あるが、今大会では完成された技術ではないものも含めて、トライアルをやっていく。今後この大会をきっかけに新たなデジタルの技術、コミュニケーションツールが開発されていくきっかけになることも今回の大会の大きな一つ特徴として捉えている。
- ・また現場では、コミュニケーションボードやホワイトボードなど様々な有効的なツールを使いたいと考える。必ずしも手話言語やデジタルツールを使わないといけないわけ

はなく、様々な手段を通じて様々な方のコミュニケーションがスムーズにいくように努力していきたいと考える。

○JPSA 藤原常務理事

- ・各国の選手団は、国際手話ができるというふうに考えていいのか。

○デフリンピック運営委員会

- ・デフアスリートが全員、国際手話ができるわけではなく、個人差がある。各国の選手団が国際手話通訳を帯同させる方法や、翻訳アプリ等のデジタル技術によるコミュニケーションによる方法がある。また透明ボード上での字幕表示や音声文字化できるような音声認識ボードという新たな技術が日本にあり、大会でも活用ができると思う。海外の選手に対して日本の技術を新しい経験をしていただいて、体験いただく方法になるかと思う。

○デフリンピックスクエアについて（東京都スポーツ文化事業団）

- ・デフリンピックスクエアについて補足する。デフリンピックスクエアは今回の大会の一つ大きな特徴になると思う。ここには、選手団が集まるミーティング、選手団が各会場に行くための輸送のハブ、大会運営本部、メディアセンター、そして記者会見場など、メディアの方々が集まる所もここに集約したいと考えている。併せて、様々なデジタル技術を紹介するエリアや日本の文化を紹介して海外の方々に楽しんでもらう場所、デフリンピック自体やデフ文化を理解してもらえそうな場所として機能させていく。また選手たちとコミュニケーションができるような機会も考えていきたい。
- ・デフスクエアは東京大会の一つの象徴的な場所として世界に向けて発信して、日本の中に浸透していく場所として機能していくよう、準備を進めていきたい。みなさんのお力添えをいただいて、そのようなすばらしい場として選手団を迎え入れる場所を作りたいと思っている。ご協力の程お願いします。

○中村公認会計士

- ・開催基本計画等の説明を伺い、今後どのように進んでいくか理解ができた。
- ・「みるカフェ」の報道を見て、実際に行ってみたいと思っている。ある会議で音声翻訳ディスプレイを開発されているベンチャー企業の人と話す機会があり、共生社会への取組について私自身も理解が深まった。
- ・今後、予算を作成され、来年度の事業計画等を立てられると思うが、それぞれの組織体における規定等に従った運営を行い、ぜひ公表できるものは公表して説明責任をしっかりと果たしていただければと思う。
- ・私自身も手話言語ができればいいなと常日頃感じているが、わかりやすい手話の教材になかなかアクセスする機会がないので、簡単なものを SNS 等を活用して広げていくようなツール、活動があればいいと個人的には思う。

○三好弁護士



- ・スポーツ庁からも指摘がありましたガバナンスについて、基本計画に記載されている内容を実践、実現していくことが非常に重要。引き続き留意をしていただきたい。私自身も大会を身近にとらえられるようになり、大会を楽しみにしている。

### 【意見交換総括】

#### ○事務局

- ・本日のまとめをさせていただきたい。
- ・開催基本計画の策定、運営委員会における検討状況、都の気運醸成に関する2年前の取組について、皆様にご確認を頂くことができた。
- ・次回連携会議について、日程が近く委員の皆様には大変恐縮だが、12月にも開催を予定している。具体的な開催時期・開催方法については改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。

#### ○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日皆様からいただいた貴重なご意見を反映し、引き続き大会の成功に向けた準備を進めていく。本日はありがとうございました。